

農学知的支援ネットワーク(JISNAS) の設立

これまでICCAEにより、大学や研究機関等が有する知的資源を組織的、継続的に活用し、科学技術ODAや国際協力等に積極的に貢献できる体制の確立を目的とした活動が行われてきました。その活動の中で、2009年11月30日に、全国の大学や研究機関および文部科学省、農林水産省、国際協力機構(JICA)及び国際農林水産業研究センター(JIRCAS)の参加を得て名古屋大学で農学知的支援ネットワーク(JISNAS=Japan Intellectual Support System in Agricultural Sciences)の設立総会が開催され、会則、組織運営体制が決定され、正式な設立に至りました。全国の大学から9名の運営委員が選出され、互選を経て、田中耕司京都大学教授が運営委員長に指名され、ICCAEは事務局を引き受けることとなりました。また、文科省、農水省、JICA及びJIRCASはアドバイザー機関として参加していただくことになりました。すでにホームページ(<http://jisnas.com/>)を開設し、現在、プロモーションと会員獲得のため全国の大学訪問を行っています。ICCAEは事務局としての責任の重大さを強く自覚し、活動を支援していきます。(浅沼修一)



設立総会における田中耕司運営委員長の挨拶

愛知県農業総合試験場、JKUAT、マセノ大学と共同研究契約を締結

ICCAEは、東アフリカにおける稲作振興のための研究推進に向けて、2009年度に愛知県農業総合試験場、およびケニアのジョモケニヤッタ農工大学(JKUAT)とマセノ大学との間で共同研究契約を締結しました。東アフリカ・ケニアの高原地帯における稲作で問題となっている雨季の気温低下に伴う冷害といもち病の発生に対処するため、愛知県農業総合試験場山間農業研究所と共同で、耐冷性およびいもち病抵抗性のイネ品種育成に向けた新規遺伝子マーカーの開発と遺伝子マーカー育種に取り組みます。JKUATおよびマセノ大学との共同研究では、耐冷性、いもち病抵抗性および耐旱性イネ品種の現地適応性評価、現地に適したイネ品種が持つべき形質の特定、および生育阻害要因を克服するための栽培技術の確立に取り組みます。(楨原大悟)

ICCAEと愛知県農業総合試験場との共同研究の成果を発表

平成21年12月17日に愛知県農業総合試験場で開催された、名古屋大学大学院生命農学研究科と同試験場との研究交流会において、ICCAEが、生命農学研究科、同試験場と進めている共同研究の成果について、研究チームの一員である生命農学研究科の犬飼義明氏が発表しました。同試験場とは平成20年度より、「環境ストレスに関する稲遺伝資源の評価」という課題のもとで共同研究を進めています。

また、東アフリカの稲作振興を目指している、平成21年度科学技術振興調整費「国際共同研究の推進」(研究課題名:東アフリカ稲作振興のための課題解決型研究)による共同研究も進めており、今回の発表は、それらの成果の一部をまとめたものです。同試験場は、いもち病に関して世界トップクラスの研究成果を有し、ICCAEとの共同研究の進展によって、その成果がアフリカ稲作振興に活かされ、またそれが愛知県の農業研究にもフィードバックされることが期待されます。(山内 章)

名大農学部・王立農業大学カンボジア海外実地研修を農国センターがサポート

資源生物学科3年生を対象に平成21年11月19日から26日に海外実地研修を実施しました。研修では、カンボジア王立農業大学の3年生とともに、カンボジアの農村で農業や生活の調査を行いました。ICCAEの伊藤香純、楨原大悟准教授に、山内章センター長も加わって、農学部から3名の教員とともに、11名の学生を引率しました。王立農業大学からも12名の学生が参加し、3名の教員が指導に当たりました。

最終日には、副学長、学部長を始めとする教職員や多くの学生の参加のもと、両大学の参加学生による成果発表会と修了式を行い、地元のテレビや新聞等にもその模様が報道されました。

王立農業大学に対しては、ICCAEを中心に平成12年より、大学院強化支援や共同研究を実施し、また一昨年には、ICCAEの支援のもとに生命農学研究科との間に、「学術交流に関する協定」と「学生交換に関する覚書」を締結してきて、これらの成果を踏まえて、この研修が実現しました。(山内 章)